

## COP15 具体的保護策を

### COP10 関係者期待

二〇二〇年までとされた愛知目標は、二十項目のうち「陸域の17%と海域の10%を保護区にする」など六項目が一部達成したのみにとどまった。COP10に関わった人々は「後継目標には具体的な生態系保護策を盛り込んでほしい」とCOP15の議論を注視する。

#### 一級ビオトープ計画管理士の

は「生物多様性条約について、人々が生活から遠いと思っていることが問題。ごみの減量化で藤前干潟の生

態系を守ったことを振り返ってほしい」と話す。「日本は生態系が70%破壊されたホットスポットとされる。『世界から見たら最優先で生態系を守らなければならぬ所に住んでいる』という認識が必要だ」と強調する。

日本福祉大の福田秀志教授(五巴)は「森林保護学」は、COP10を機に自ら関わった愛知県の取り組みとして、分断された生態系を街路樹でつないだり、企業や行政などが植樹やビオトープの整備をしたりしていることを挙げる。「(身近な)普通の生態系をどのような方法で守っていくかという議論が重要だ」と話す。